

★郷土を愛する人々の雑誌★

神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日第三種郵便物認可 昭和44年5月1日印刷 通巻96号 昭和44年5月1日発行 毎月一回

the kobekko no.97 may 1969

5



MIKIMOTO

深い光沢をたたえ

かぎりないロマンをくりひろげる

真珠のいのちを

ミキモトはユニークにデザインします



写真のブローチ

左 PBZ-11035 K14製 ¥82,000


右 PBZ-11144 K14製 ¥100,000

リング

上 PR101 K14製 ¥27,000

下 PR424-16017 K14製 ¥23,000



 御木本真珠店

神戸店 = 三ノ宮 - 神戸国際会館 Tel. 22-0062

大阪支店 = 堂島 - 新大ビル Tel. 363-0247

大阪 = 阪神・高島屋・松坂屋・阪急

本社 = 東京 - 銀座4丁目 Tel. 535-4611

木質の包みは捧げ持つ少女の白い花

絵十詩 / 津高 和一



W. N. Takeda, 69

KOTOBUKI CONFECTIONERY



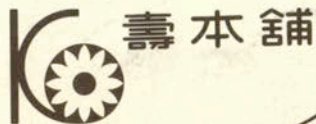
明るく
健やかに・子供の日を
お祝いいたしましょう

コトブキの お節句菓子

お節句ケーキ ¥400・500・600・800・1000

かぶとチョコ ¥600★お節句バッグ ¥200

ちまき(1袋) ¥100★柏もち ¥20



神戸っ子'69

新谷沢子

〈彫刻家・二紀会〉カメラ・米田定蔵

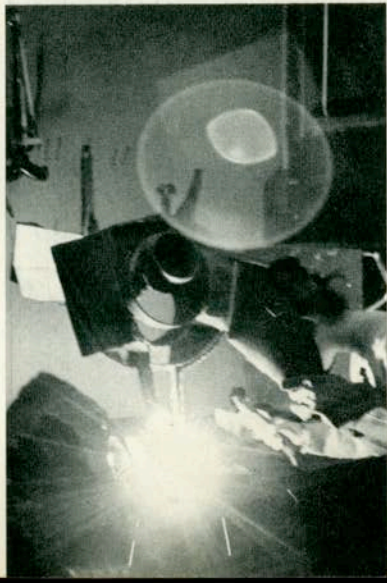
重量感のある木彫の世界から、重さを殺した冷たい鉄の感覚を生かした連作・親子の世界。新たなフォルムが作者の存在を許している厳しさがある。

新谷沢子。京都美大を卒え、アメリカの現代美術の真髄に触れるためシュナード・アート・スクール（写真下）に留学。美術館・画廊巡りで、作品のスケールの大きさと、その作品が自然にマッチしているのに驚く。

ロングビーチ美術館にも出品、好評を博した。その後、ローマで勉強中の兄・琇紀氏と共にヨーロッパ旅行をする。その体験を生かすのが今後の課題だそう。五月九日よりそごう画廊で兄妹展を開く。



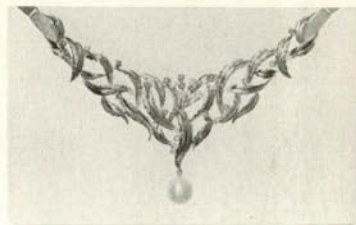
アトリエにて



TASAKI PEARLS

田崎真珠

本社 神戸市灘台区旗塚通 6-9
三宮店 神戸新聞会館秀品店内
パールファーム神戸 神戸市灘区六甲台町 2-4
銀座店 東京都中央区銀座西 6-5
パールファーム 溜池電停前 (ショールーム)
ヒルトン店 東京ヒルトンホテル内
オータニ店 ホテル・ニューオータニ内
札幌店 札幌パークホテル内



あなたの真珠はパール・マークのお店で

日本真珠小売店協会加盟店



●神戸っ子'69

内海

元

〔サンテレビジョン
ディレクター〕

カメラ・米田定蔵

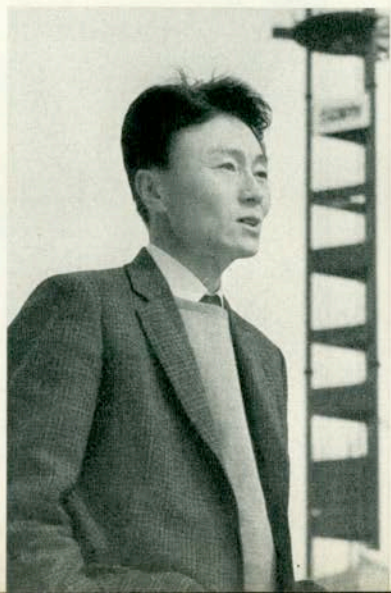
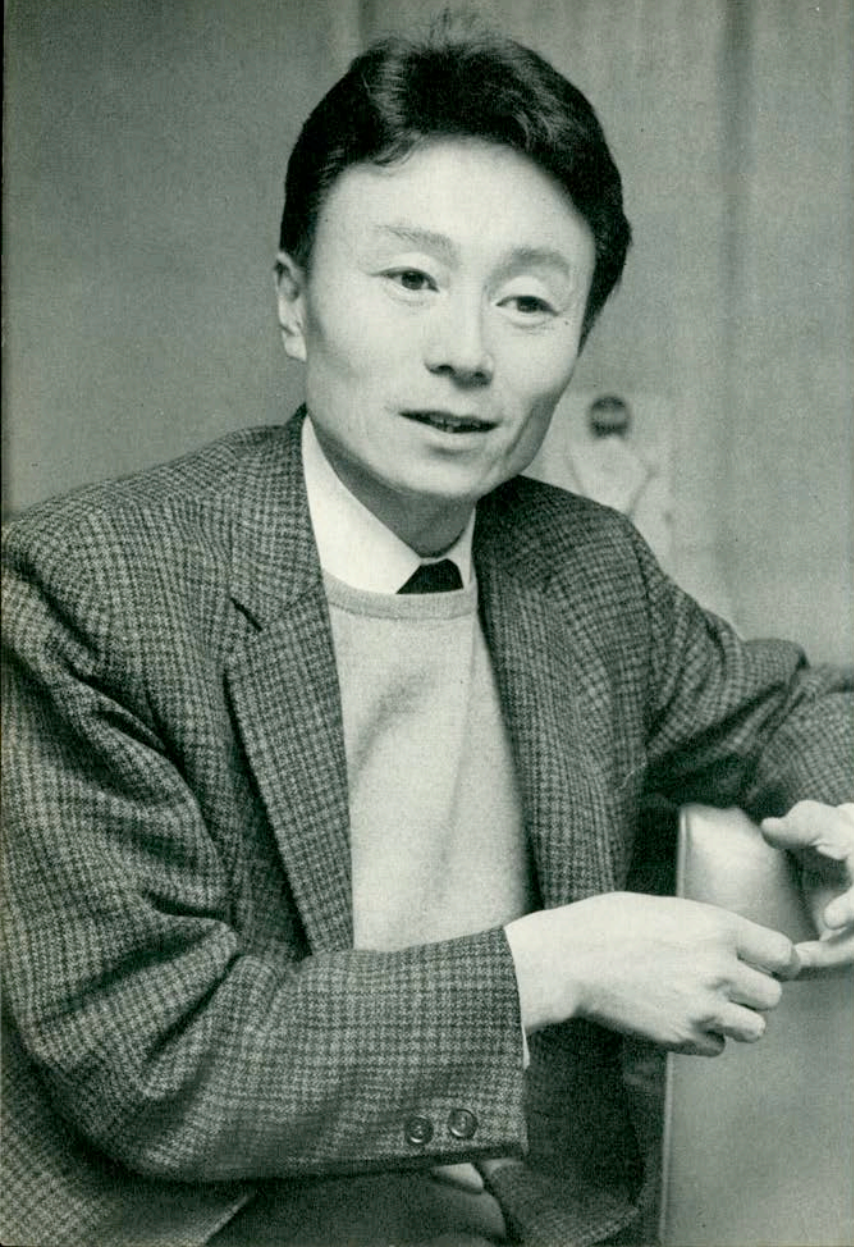
五月の陽光が、摩耶の送信所に映える。テレビというメディアに新たに挑戦する意気がすさまじい。

内海元。神戸大学時代から演劇に志し、ラジオ関西からサンテレビジョンへ。ラジオの音楽番組を担当しているうちに、歌謡曲が大衆に密着している必然性を肌で感じとる。

15人のディレクターの中では最年長者だが、5人のグループで視聴者参加番組・サンテレビホールを受けもつ。視聴者を獲得することが第一で、その中で放送の理念を生かしたい、と抱負を述べる。

神戸在住。37才。

〔写真真下・サンテレビジョン社屋を背景にして〕



確信を持って
タジマの眼が選んだ
宝石の名品



白金ダイヤ入りブルーサファイヤリング

Tajima
タジマ

***宝飾店

元町2・TEL ③ 0387・2552

タジマでは、宝石の鑑定を無料でご相談に
応じておりますので、お気軽にご利用ください



ある集い
「文学と歴史」
の会

『文学と歴史の会』という名称を標榜しているとおり、文学的見地から歴史を記録しようという会で、雑誌「文学と歴史」を毎月発行している。小説家で、月五百円の会費を納めれば誰でも仲間になれる。会員は現在十三名、神戸を中心に天理、大津にまでおよんでいる。神戸は研究素材には、ことかかないが、会の目的が歴史をさぐり、歴史を記録しようという大仰なことだから、どうしても個々の見解に齟齬を生み、会自体も漠然としたものになりがちである。まして、めいめい自己の個性を尊重する野人的作家の集まりなので、統一に欠け、始終内部分裂の危機を孕んでいる。発足当時、まず会合の回数で悶着が生じた。結局雑誌の編集員を三月毎に改選するので、その時にみんな集まるだろうから、それを会合にしようということになった、というのだから何とも気楽な話である。雑誌「文学と歴史」も十二頁、発行部数二百の小じんまりしたものである。

杜山さんの言をかりれば「会にしろ雑誌にしろ、はじめから立派なものになると、伸び悩んで息がつづかなくなる。息の長い会にするには、じつくりと基礎を積み重ねていくことです。何もあせる必要はありませんよ」案外このあたりがこの会の魅力があるのかも知れない。

(写真左から)
大塚雪郎 春木一夫 後藤和人
郡 静子 大江賢男 入本忠好
杜山 悠



本格派の人々に
愛される
ヨシオカの靴

★靴のオーダーメイド

ヨシオカ

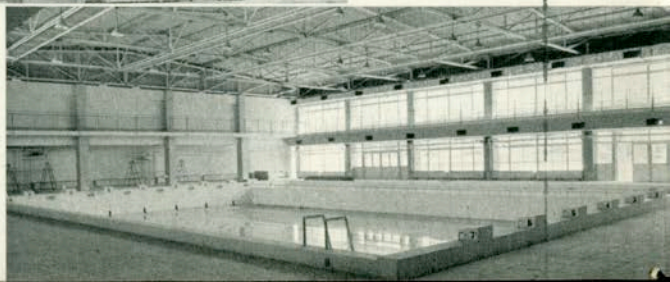
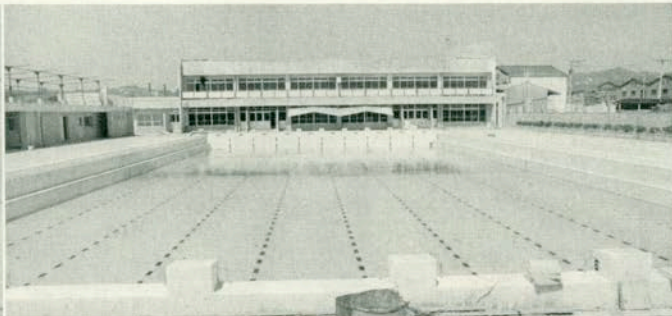
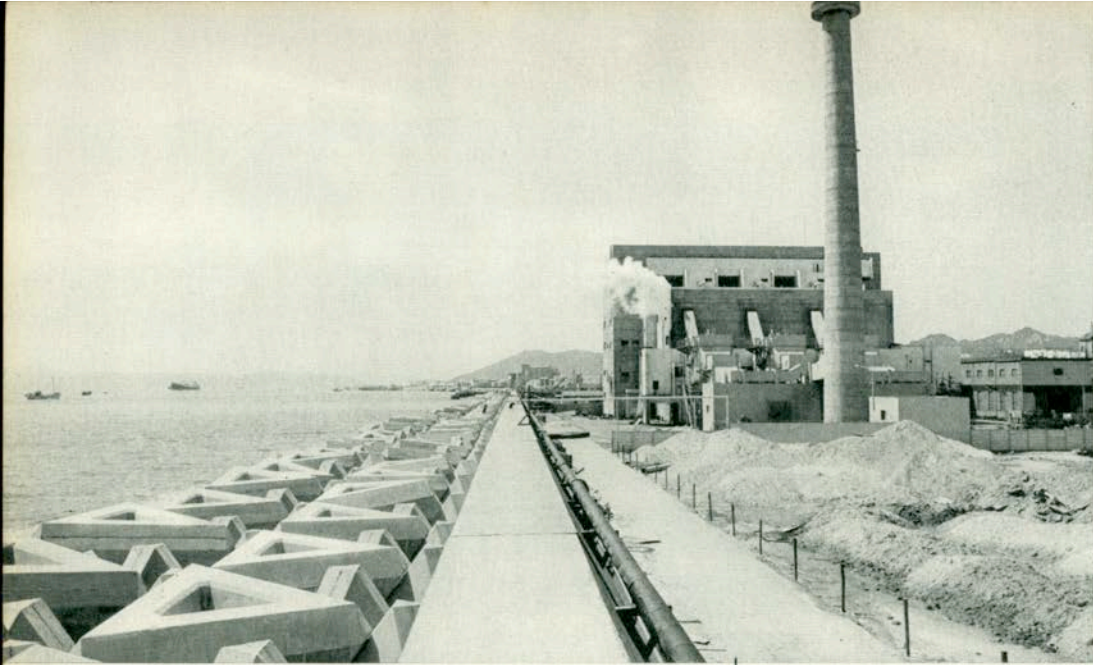
□神戸店
大丸前 <33> 5190・9763

□東京店 渋谷 462-3436(直)
東急百貨店 日本橋 211-0511(代)

苅藻島の新たな息吹き

西部第二工区の防潮堤は、神戸の街を静かに守っている。長田区苅藻島町。ここは木材団地と清掃工場と、それに温水プールの街だ。四月二日。木材団地創立一周年記念市が開かれた。五六社の業社が入り、大阪から姫路までの材木店四五〇軒を販売対象としている。

清掃工場は昨年九月に竣工した、神戸市で二番目の機械式焼却炉をもった近代的工場だ。一日四五〇tの焼却能力をもち、隣の温水プールに蒸気供給をする。25mの温水プールに50mの冷水プールは、神戸市民の新たなオアシスとなるであろう。



写真上 集塵装置のついた清掃工場
蒸気が手前のパイプで
プールに送られる
中 水連B級公認の
50m冷水プール
右 室内温水プール。
料金は大人 150円、
小人 100円(2時間)
左 材木団地のせり風景



白金ダイヤ入南洋真珠リング14mm

村田*真珠/銀座山岡*毛皮/舶来婦人服飾



さんちか*レディスタウン・TEL 39-3886-7

有限会社・タイグレス

神戸店・神戸市生田区山本通り 4-97
村田真珠本社内 TEL (078)23-1212-6
東京店・東京都中央区銀座 8-2
山岡毛皮店内 TEL (03)572-0021-2



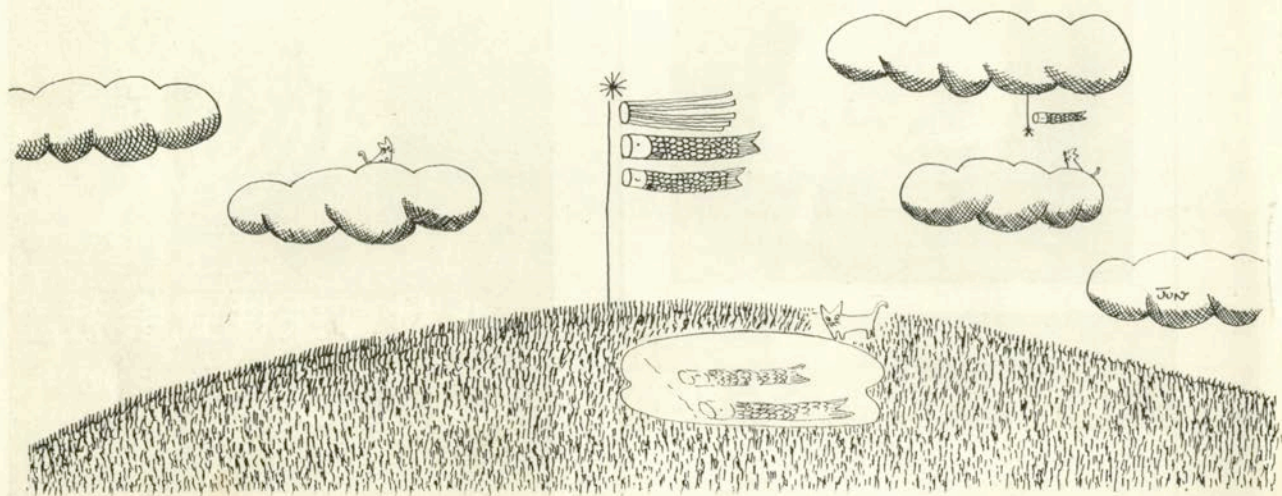
ミニの女王マリークワントの新作が
入荷しました。(写真8000円)

これは神戸を愛する人々の手帖です
 あなたのくらしに楽しい夢をおくる
 神戸を訪れる人々にはやさしい道しるべ
 これは神戸っ子の手帖です

● 5月号目次

表紙—小磯良平

- 1 Second Cover / 津高一
 3 神戸っ子 / 68 / 撮影・米田定蔵
 ① 新谷沢子・② 内海元
 7 ある集い / 「歴史と文学の会」
 9 コウベ・スナッパ / 西部第二工区
 13 わたしの意見 / 山脇陽三
 15 随想三題 / 俳句になる神戸風景・伊丹公子
 フレッシュこうべ・大窪 朗
 リビドーの人間・古川 浩
 18 ある集い・その足あと / 「歴史と文学の会」
 随想 / 走りつづける・村社講平
 21 随想 / 神戸カーニバルがやってきた・小野富次
 29 れんさい随想⑩ / 立派な会場はできるけれど・十河 巖
 座談会 / サッカーを語る・玉井 操・山岡浩二郎・釜本邦茂
 個人技とコンビネーションの魅力
 経済ポケットジャーナル
 41 神戸のモダンリビング / 水谷顕介十
 43 神戸のアーバンデザイン / ナムUR
 44 技術ジャーナル / 諸岡博熊
 47 神戸っ子酒祭り聞かれる
 48 動物園飼育日記⑩ / 雪の日のどろぶつたち・亀井一成
 52 神戸っ子酒祭りアルバム
 58 グラビア / 陳舜臣氏の直木賞受賞を祝う
 66 座談会 / 祭りの伝統をつくろう /
 恋の芽生える神戸カーニバルに
 神戸の集いから
 83 CINEMA ⑩ 淀川長治
 84 神戸遊戯誌⑩ / ハンティング③・青木重雄
 86 連載マンガ / 指④・岡田 淳
 88 オートバイ旅行記⑩ / 大迫嘉昭
 91 ムッシュ・ド・コウベ⑩ / 佐谷 弘・竹田洋太郎
 92 ヘンなページ⑩ / こは、向井修二
 94 神戸百貨店だよ
 100 ポケットジャーナル・花時計
 104 連載物語第20回・非悪重物語 / 足立巻一
 114 連載小説 / 兵庫の女ハ39 / 武田繁太郎
 121 海・船・港⑩ / シュワール号を訪ねて
 124 カメラ歳時記 / 5月 / 緒方しげを
 カメラ / 米田定蔵・カット / 岡田 淳



晴れの日の
ウェディングケーキ
6000円よりご用命承ります

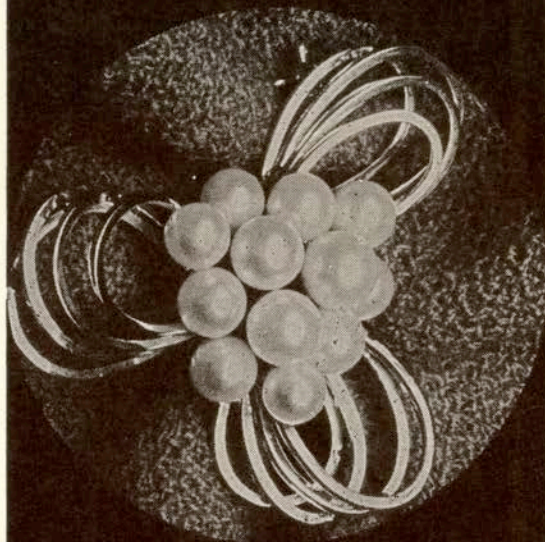


北 欧 の 銘 菓
ユーハイム・コンフェクト

本 社 ・ 工 場	■ 神戸市灘合区鶴内町1 (市立美術館東隣)	TEL 22-1164・9865
三宮センター店	■ 神戸三宮センター街 (洋菓子・喫茶・レストラン)	TEL 33-2421・4314
生 田 店	■ 神戸三宮生田路 (隣上喫茶室)	TEL 33-0156・7343
さ ん ち か 店	■ 神戸三宮地下街スイーツタウン	TEL 39-3558

Kitamura Pearls

世界の人々に愛される
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸：元町店 TEL ③③ 0072
東京：スキヤ橋店 TEL <571>8032



1870 SINCE



BERLIN
ORIGINAL PELO

日本販売元

元町八ザ一

神戸・元町1丁目 TEL (33) 1401-7031
東京・東急百貨店 渋谷・日本橋



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

随想三題

カット／津高一



とりつかれた人々の眼差しが、枯れた絵具の中にのこっています。そんな昂りが石の部屋で冷えています。南の窓には伝来の海さえも。

港の少女 今日ではじめての

船名 読む

港に住む少女には、それなりの変わった楽しみがあります。入港した外国船の名を憶えるのもそのひとつ。はじめて読む船名の、そんな小さな衝撃が少女の午後を新鮮にしました。

舶来乾物が 呪術のように

南京町

この乾物には南蛮渡来の時計がもっているような奇妙な古めかしさがあります。何に使うのかわからない豆や葉は仙女の葉のようでもあります。すっかり神戸の街に棲みついた華僑が歌うような日本語でしゃべっていました。

おとなばかりが住んで

静かな 異人館

北野町界限は、のこり少ない異人館の町。鏝戸だらけの異人館は明治のなつかしさです。この山の手のバルコニーから港は正面に見下せます。表札が横文字のとカタカナ文字のと両方かけられていたりするのも温かな感じ。低い鉄の門の異人館には犬が似合います。芝生の異人館には赤ん坊が睡っています。でもこの家は大人ば

俳句になる

神戸風景

伊丹公子

△俳人△

東京から友達が遊びに来たので六甲から摩耶山へ抜けました。

彼女は「明るいね、あかるいのね」とはしゃいで坂道でころんでしまいました。そうです、神戸は樹も土も水も明るいのです。お誘え向きの晴れた日でしたから尚更です。山上から見た突堤はくっきりと切紙細工のように開いていました。

私は神戸の生まれではありませんけれど、もう二十九年も阪神間に住んでいますので故郷とおなじです。ですから俳句がつくれないう時は、港や動物園や裏山を歩くと不思議に書けそうな気持ちになってしまいます。私にとって神戸はそんな街なのです。胸の下からまっすぐ沖へひらいた海を見ながら、私の俳句もまた彷徨のようなものなのだと考えました。

遠眼鏡 ひっそり 海へひらいた南蛮館

布引の東にある神戸市立美術館は南蛮美術のコレクションで有名な遠い遠い昔、未知の文明の魅力に

かりにちがいがありません。半開きの窓から見える部屋は無人の海のようにですから。

安堵の型か 寝墓 亡命の日の秋陽さし

再度山修法ヶ原の外人墓地。寝墓をどうして安堵の型と思ったのかわかりません。十字架の明晰さと並んでいてそう見えたのか。秋陽が供花もろとも墓石を照らしていた故か。石の表面に刻まれた、片羽根もげたエンゼルのような形のロシア文字で、白糸露人の名前らしいとは、わずかに解りました

フレッシュこうべ

大窪 明

▲大窪鉄工所専務・神戸J.C.副理事長V

久し振りの大雪が、私の白い車を白く覆ってしまい、それもやがて赤茶けた斑点を一面に残して溶けてしまった。この前の大雪の思い出は東京時代である。武蔵野の泥んこに悩まされ、汚い釜と洗濯板で辛い自炊をしていたことを思い出す。あの頃の神戸の空は青く澄んでいて、空気がとてもおいしかった。半日近くゆられて降り立つ三宮の駅で、寝呆け眼をこすりながら大きく背のびして吸う朝の空気の、何とおいしかったことか右を向いても、左を向いても、山も海も見えない息苦しかった東京

ぐらしを、神戸の山と海が忘れさせてくれ、しみじみといひ故郷だなあといい思いで眼が覚めるのだった。私の住む六甲のあたりも、その頃はとても静かで、夏の夜、窓を明け放してやすんでいると、夜の音が聞えて来るような思いに、なかなか寝つかれなかったものだ。しかしこの頃は車の音がやかましく、また隣家のクーラーの音が気になって寝つかれない夜がよくある。

街も、生活様式も変わってゆく。東京へ行くにも、日帰りどころか二往復さえできる。汚い釜と洗濯板は、自動炊飯器と洗濯機に変わってしまった。空も汚れてきたし、騒音も多くなった。六甲の山も、須磨の海も変わってしまった。神戸も大阪も東京も、だんだん似てきたようにみえる。だけど、神戸はやはり神戸の魅力に満ち溢れ、明るく、若々しく、そしてセンスがある、そんな神戸なのだ。

今、神戸は多くのビッグ・プロジェクトをもっており、それは静かに実現しようとしている。そこには二十一世紀の新しい「まち」ができあがり、かつて神戸が日本の流行の先端を行く町として宣伝され、神戸の市電が日本一スマートだといわれたように、新しい魅力が、いま神戸に生まれようとしている。ここで私達神戸に住むも

のが考えなければならぬことは、
“……”ができてよとしている”とか、
“……”になるようだ”とかいって、他人ごと・他所ごとのような無関心さでいいのだろうかということがある。神戸のいいところを保たせるためには、現状維持とすることではなく、激しく流動する世の流れにあわせてまちの特色を生かす努力をつげなければならぬ。青い空がなくなれば、心の中に青い空を持てるような生活のできる、明るいまちづくりを努力すればよい。そのためには、地域社会に関係するものすべてが、神戸らしいまちをつくるために、時代の流れに合せて努力したい。当面する問題を現状維持という姿勢で考えず、明日を昨日よりよくするためにという風に考えたい。そのためには神戸はどのように変り、どのような方向にむいているのかを、神戸のプロジェクトを通じて、私たち一市民の末端までが知り、考えてみる必要がある。
この大好きな「こうべ」がいつも、フレッシュで、明るく、若々しい「まち」であってほしいものだ。

リピーダー人間

古川 清

▲洋西家・二紀会V

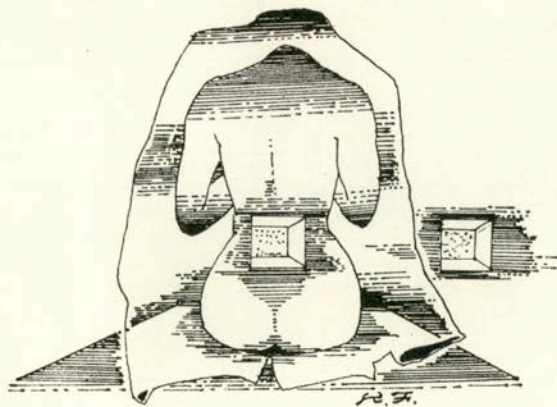
情報の時代といわれ、コンピュータといわれる今日、おびただしい情報過多の状況の中にあつて、ますます個は巨大なメカニズムの彼方へ押しやられ、疎外される羽目に陥り、一片のロマンでさえもありし日の尾底骨としての価値をわずかにとどめるにすぎなくなりつつある。そんな今日でも、昨日までと変る事もなく、明日を空想し想像の価値の発見にかける事に生きる人達が増加の一途を辿

っているように思える。昨日までなら普通の学生が今日革命家になつたとしても、芸術家になつたとしてもそれが日常的な事になつてきているという事は、普通の人も、革命家も芸術家も、同じ情勢を手に入れられる状況にある以上、一はその情報操作の如何であつてみれば当然ともみられる。

我々は生きる事において、死ぬという事において極限としての追体験を行なわなければならぬ事を考え、今日の状況を把握し、指向性アンテナを張りめぐらし、しかし決して今日性のみにのめり込まぬよう、むしろ明日の方向へ一歩ふみ込んだ中で、今日とのギャップに引き裂かれる瞬間にその深層にリビドーをみるのである。芸術する事を目的とするよりは芸術家になる事自体が目的とさえいえる今日の我々にとつて、その

理性の原則に挑戦する感性の秩序を表現する際にタブーとされた満足の論理に訴える。このタブー行為の中に、その芸術家のカリソマを感じとるからで、それは情報の洪水をコントロールし得ない者として埋めるべき情報のギャップを作品化されるプロセスの中に作家の教祖的行為をみるからである。

感性によつてもたらされた美の世界は善の世界と同時に悪の世界も二律背反的に有する故に極限的悪の世界を、決して受け入れられることのない毒薬として、現実社会に持ち込み、既成の概念に対して、破戒の役割を果たしつつ時代のタブーを徐々に消去させる事によつて善的世界の美に立ち帰ろうとするのである。とにかく生産性を第一義とする今日社会にあつて労働の価値は、それ自体が目的であり手段であることは変りないにしても、その労働の実体が果たして、どのようにして我々のリビドー的人間をモラルづけていこうとするのか、あるいはすでにどこかでリビドー的労働の価値なるものが準備されつつあるのだろうか、仮に「我々は、罪のない状態に立ち戻るためには、もう一度知恵の木の実を食べなければならぬ」としたら……。



カット／古川 清

芸術の支配的な